

教職員への具体的な支援を

— 学校でのコロナ対応で緊急県教委要請



学校への人的支援について

毎日長時間にわたる消毒作業や過密な教育課程、夏季休業の短縮などで疲弊している学校への人的援助について、教職員課長は「スクールサポートスタッフについては今年度四十一名の予算を確保した。障がい者雇用が進まずまた三名が欠員である」「国の補正予算で、今後全校へ

山教組は七月三十日、学校での新型コロナウイルス対応について緊急に県教委要請行動を行いました。感染拡大防止の観点から、山教組からは福岡執行委員長、堀野書記長、大沼書記次長の三名のみ参加、県教委からは那須教職員課長、大瀧課長補佐が出席しました。

出張・研修の削減について

出張や研修について山教組は、「一学期に延期になった教育センターの研修が二学期に集中し、これでは授業時数確保と矛盾する。法定研修も含め縮小・中止すべきだ」と要請。県教委は「一学期の研修がそのまま二学期にスライドするのではなく、多くは紙上開催や資料送付になっている。初任研の校外研修は、今年度十七日から十一日に短縮している」と回答。希望者のみ

の支援員の配置が決まった。必ず面談をして、学校に適した人材確保に努める」と回答しました。また消毒作業の負担については、「一人にもよるが、スクールサポートスタッフに作業をお願いできることもある。消毒薬等の経費については、義務教育課で市町村からの要望を取りまとめる」と回答しました。

県教委への緊急要請の主な内容

- 1 スクールサポートスタッフの早期の配置
- 2 教職員の消毒作業の軽減、外部委託
- 3 教育センター研修の縮小・中止
- 4 初任者研修の校外研修の大幅な縮小
- 5 経5年研・経10年研の縮小・廃止
- 6 免許更新講習を延期・縮小すること
- 7 変形労働時間制の条例化をしないこと



市教組は七月八日、学校再開後の状況と課題について、高橋執行委員長が土屋市教育長と懇談し、意見を交換しました。市教組は、この間の市教委の対応について、教育課程の編成など各学校の主体性を尊重しながら、刻々変わる状況に対して的確な対応であったことを評価しました。その上で市教組は、毎日放課後の相当な時間をかけて、校内の消毒作業を行う教職員の負担が大変な状況になっていることについて、改善を特に要望しました。市教委からは、必要な人員の配置や、今後の学校行事の安全確保について最善の努力をするとの表明がありました。なお、大沼書記長と今崎教育指導部長も同席しました。

【訂正】前号で紹介したコレラ神社のある春日神社は、窪田の矢野目ではなく、東江股でした。(書記長)

新型コロナの感染者が再び急増し、国民の不安が高まる中、安倍首相は早くも夏休みに入っただけです。

「Go To トラブル」スタートの四連休明け。新聞の「首相動静」によると、首相は毎日午後に出動し、官僚からの報告を聞いただけで、記者会見も2カ月近く開かず、毎週2回と決められている閣議も開かず、さつさと夕方には帰宅しています。

野党が憲法に基づいて要求している臨時国会についても、「開くのはイヤだ」「追及される」と側近にタタをこねているという週刊誌報道は、あながち当たっているかもしれません。

神経をすり減らしながら、子どもの心に寄り添い続けた一学期も終わります。短い夏休みですが、私たちも少し心と身体を休めましょう。



第17号
2020年 8月 4日 発行

米沢市教職員組合
米沢市門東町2-3-27
米沢教育と文化の会館
TEL (0238) 23-1542
FAX (0238) 23-1560
https://yonezawa-tu.jp/
Mail : ytuandzu@lemon.plala.or.jp

変形労働時間制の条例化

二年延長になった免許更新講習について県教委は、「今後、取得後十年のいわゆる『新免許者』と混在することになる。免許の失効にならないよう免許管理に万全をつくす」と回答しました。

学校再開後の現状について
市教育長と懇談

類想類句

山教組が定期大会を開催

山教組は八月一日、南陽市内で第二十九回定期大会を開催しました。大会には代議員、執行委員など約二十五名が参加しました。コロナ休校後の学校の状況について県内各地の実態が報告され、変形労働時間制の導入阻止など今後の運動方針を決定



しました。なお議長は鈴木一法先生(三東小分会)で、主な発言は以下の通りです。

井形代議員(米沢)

一斉休校の期間は大変だったが、教職員同士で話し合いがでる時間が増え、いかに今まで過密な中で仕事をしてきたかを改めて認識した。スポ少も解禁されたが、月曜日に体調をくずす子どもが増えて心配である。

金山副委員長(東置賜)

多くの行事がなくなっただけで、放課後は子どもたちが自由に過ごせる時間となり、思いがけず子どもたちは伸び伸び過ごしていた。一方、学校再開後は保健室に行く子どもも増えている。昨年度は久しぶりに三つの地教委交渉を行い、エアコン設置などの要求を集約することができた。

阿部代議員(北村山)

この間、若い先生方を誘って学習会を開いた。日々の授業づくりを考え直す良い機会になった。

荻原副委員長(高校教組)

勤務していた高校はクラス数が減り、どのクラスも過密で密を避けるなどできない状態だ。高校にも少人数学級が必要だとの声が上がっている。

高梨代議員(東置賜)

様々な個性を持つ子どもたちがいる情緒学級の担任をしているが、一人ひとりに応じた教育の重要性を改めて感じている。コロナ禍で少人数学級の価値が見直されている。

高橋副委員長(米沢)

これからの運動の担い手をどう育てていくかが大きな課題。昨年度末、勤務校のすべての先生に声をかけた。これまでも職場で分会長がいてねいに署名などのお願いしてきたこともあって、多くの先生に組合に加入していただいた。

堤代議員(米沢)

学級行事のとりくみなど経験の少ない先生も多くなったので、学習会に誘ったり、教研でのレポーターや総合共済への加入もしていただいた先生に声をかけ、組合に加入していただいた。

太田代議員(米沢)

今年度限りで閉校になる学校。思い出づくりのための様々な取り組みを計画していたが、なくなってしまう。来年度に遅れを繰り越せないで、週の授業時数も増え、複式学級は特に負担が大きい。今年度中止になった出張や行事を見直し、必要な

ものは来年度もなくてもいい。

大塚代議員(東置賜)

県学テも全国学テもなくなったのに、アクションプランは今年も提出だ。早くも来年度の全国学テの日程も通知されている。どこまで学テにこだわるのだろうか。

堀野書記長(総括委員)

分散登校のとき、不登校のみだった子どもも登校できたが、通常の学校に戻ったらまた不登校になってしまったということも聞いた。コロナ禍で、少人数学級こそ必要だという声もひびかっている。若い先生方も、子どものことや自分自身の生活のことを真剣に考えている。そうした声を受け止め願いを実現していくために組合が必要だ。スクールサポートスタッフの配置など、人的な支援を今後も強力に要求していく。



連載「働き方の総点検」

⑤ 公開研・研修一

今年は米沢市教委委嘱の公開研が中止になり、来年度にそのまま延期されます。県内のほとんどの市町村でも、今年度予定されていた公開研は中止になりました。

でも県内の状況を見ると、丸一日の公開研をずっと行っているのは、なんと米沢市だけです。

市教組は、校内研修の重要性、授業を公開してみんなで学び合うことを否定するものではありません。

しかし公開研は、事前研など膨大な準備時間が必要で、日常の授業が犠牲になり、時間外勤務も増大します。市教組は、せめて他市町村なみに半日の開催とすることを要求しています。

(くわしい経過は次号で)

	研究指定なし	半日の授業研	1日の公開研
2019年度	中山町、西川町、金山町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村	山形市、上山市、天童市、山辺町、寒河江市、河北町、朝日町、大江町、村山市、尾花沢市、東根市、大石田町、新庄市、最上町、長井市、小国町、南陽市、高島町、川西町、白鷹町、飯豊町、鶴岡市、庄内町、三川町、酒田市、	米沢市